

みなとみらい21地区で進める「脱炭素先行地域」に 新たに3施設が参画しました

横浜市と一般社団法人横浜みなとみらい21は、みなとみらい21地区の32施設とともに、環境省が公募する「脱炭素先行地域」に選定(令和4年4月)され、街一体となった脱炭素化を目指しています。

この度、新たに3施設が参画し、参画施設が35施設に拡大したことを報告します。

引き続き、みなとみらい21地区では参画施設を中心とした地域の皆様とともに、目標達成に向けた多様な取組を展開し、大都市における脱炭素化モデルの構築を推進します。

1 新規参画施設のご紹介

施設名:横浜バイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート

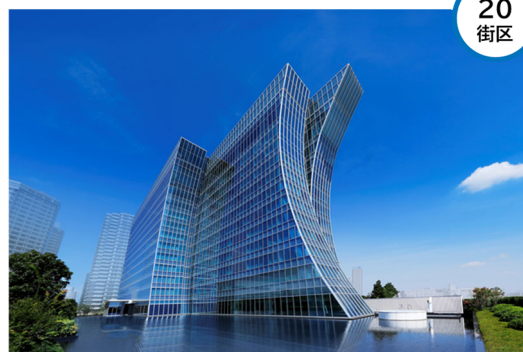
ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜

運営主体:リゾートトラスト株式会社

(脱炭素に関する取組)

省エネのため館内の照明は、全てLEDを採用しています。また、2020年度から、駐車場にEV充電器を導入し、2022年度から、EVカーシェアリングにも取り組んでいます。今年度中に、屋上への太陽光パネルの設置も予定しています。

resorttrust



20
街区

施設名:横浜新都市ビル

運営主体:横浜新都市センター株式会社

株式会社横浜スカイビル

(脱炭素に関する取組)

2022年度より全社でサステナビリティ経営のための取組強化を行い、2030年度の電力消費に伴うCO₂排出量実質ゼロを目指しています。省エネ対策として空調設備の高効率型への更新を実施してきました。今後は、館内照明の100%LED化に取り組めます。



横浜新都市センター株式会社



68
街区

施設名:スカイビル

運営主体:株式会社横浜スカイビル

横浜新都市センター株式会社

(脱炭素に関する取組)

全館で照明設備のLED化更新を行い、ビル設備(空調機他)においても、省エネに資する設備への更新に取り組んでいます。加えて、電力の再生可能エネルギーへの切り替えについても検討を進めています。



株式会社 横浜スカイビル



68
街区

2 脱炭素先行地域とは

2050年カーボンニュートラルに向けて、「地域脱炭素ロードマップ」に基づき環境省が公募する地域で、2030年度までに「民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロ」などの要件を地域特性に応じて実現する地域です。



みなとみらい21地区
脱炭素推進のオリジナルロゴマーク

< 参画施設・事業者 >



みなとみらい21地区における脱炭素の取組はこちらをご覧ください

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/etc/senkouchiiki.html>



お問合せ先		
(脱炭素先行地域の全般に関すること) 温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長	松下 功	Tel 045-671-2636
(MM21地区のまちづくりに関すること) (一社)横浜みなとみらい21 企画調整課長	平山 美智雄	Tel 045-682-4404